



今回の道

慶応大学日吉キャンパスの銀杏並木は長さ約220m、幅22m。約100本が4列に植えられている。季節それぞれの表情を見せ、日吉のシンボルとなっている。1997年度に「横浜市まちなみ景観賞」を受賞した。

「慶応義塾史事典」などによると、キャンパスの環境整備を重視して、維持管理が容易な銀杏を選び、34年に植樹した。

る陸上競技場がある＝写真。観客席の上の通路は、地域の人も利用する。



43年に慶応予科生の学徒出陣壮行会が開かれた場所でもある。

戦時中に掘られた地下壕は、総延長約5kmに達する＝写真、2015年6月撮影。原則非公開だが、「日吉台地下壕保存の会」が、慶応義塾の許可のもと、その一部の見学会を実施してい



ぶらり 東急東横線・目黒線、横浜市営地下鉄の日吉駅から銀杏並木を進むと右手に、慶大の部活動などに使われ

る。詳しくは、同会HP (<http://hiyoshidai-chikagou.net/>)。キャンパス一帯は「日吉の森」と呼ばれ、1200種を超える動植物が生息し、散策コースにもなっている。特に「蝮谷」の雑木林は、四季折々の色みせる。戦

時中に掘られた地下壕は、総延長約5kmに達する＝写真、2015年6月撮影。原則非公開だが、「日吉台地下壕保存の会」が、慶応義塾の許可のもと、その一部の見学会を実施してい



死した上原良司さんがプレーしたテニスコートもある＝写真。慶応高校グラウンド横には、海軍が使った慶応義塾キリスト教青年会のチャペルがある。

銀杏並木に思いを寄せる慶応OBは多い。高校・大学野球部

を経てプロ野球南海ホークスで投手として活躍した渡辺泰輔さん(75)は「銀杏を眺めると春には『やるぞー』という気分になり、秋には少し寂しい気持ちになった」と話す。30歳で引退後は、地元の福岡県直方市で父親が経営する会社を引き継いだ。仕事がうまくいかなかったとき、「あの銀杏も頑張っているやろなー」と、自分を奮い立たせていたという。

読む

のあとで『集英社』は、ザ・タイガースの元メンバーのことや、解散の経

瞳みのるさん＝写真＝の自叙伝『ロング・グ



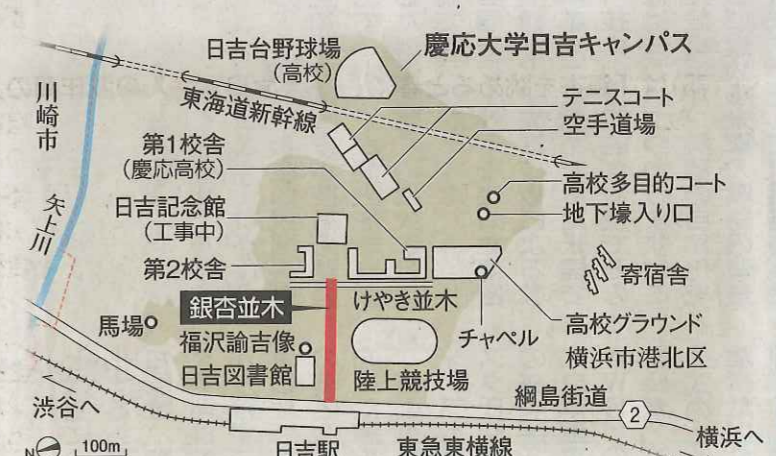
緯などについて包み隠さず書いている。

上原良司さんの22年間の人生を記録した『新版 あゝ祖国よ 恋人よ きけわだつみのこえ 上原良司』(信濃毎日新聞社)は、日記や写真をふんだんに使い、上原さんの心情を浮き彫りにしている。

味わう

日吉駅を挟み日吉キャンパスと反対側のエリアには、飲食店がひしめく。瞳

さんが慶応高校教員時代に通ったのが、創業60年のレストラン「白鳥」。名物は辛めのケチャップを使ったオムライス(税込み650円)。午前11時～午後4時。木・金曜日定休。



読者への おみやげ

「瞳みのる&十二世紀バンド」の12月10日の東京・四谷でのライブチケットを3人に。詳しくは、瞳さんの公式サイト(http://www.hitomimimoru.com/live/2017_12/)。住所・氏

名・年齢・「2日」を明記し、〒119-0378晴海郵便局留め、朝日新聞be「みち」係へ。4日の消印まで有効。◆お断り・締め切り早めました。今回は12月10日に開かれるライブチケットのため、締め切りを早めました。ご了承下さい。